

ICT 機器を活用した発表活動における学習支援の実践

— 小学部 3 年・国語「ポスターを読もう」 —

本校訪問教育部

1 はじめに

本稿では、国立循環器病研究センターでの授業実践について報告する。

国立循環器病研究センターでは、週 3 回、1 回 2 時間の学習を学習室またはベッドサイドで、教員と 1 対 1 で行っている。移動が難しい児童も在籍しているため、授業の中での児童同士の関わりが少なくなってしまうことが課題として挙げられる。今年度より、同病院に入院している学年の近い児童 2、3 名で週 1 回、10 分程度のオンライングループ学習を始めた。1 学期は主に、相手に伝わるように言葉や説明のしかたを考えてクイズを出し合う活動に取り組み、簡単なやり取りができるようになってきているが、教科学習の中で発表や意見交換を行うことはできていなかった。本実践は、オンライン会議アプリや、学習支援システムを用い、国語の学習において児童同士でより分かりやすく発表と意見交換ができることを目的として行ったものである。

2 実践の内容

(1) 本単元のねらい

本単元は、複数のポスターを読み比べ、読み取った情報を比較、分類する力や、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の感想や考えをもつ力を育てることを目標としている。身近なポスターを題材とし、「工夫されているところ」や「受け取る印象」を話し合う活動の中で自分の意見を発表しやすいと考え、この題材を設定した。

(2) 指導上の工夫

指導にあたっては、まず、第 1 時でポスターの例から読み取ることができることをもとに、「キャッチコピー」「絵や写真の様子」「文字や色使い」など情報を読み取る際のポイントを確かめた。ポイントを押さえながら、第 2 時の複数のポスターの読み比べに取り組めるようにした。第 1 時と第 2 時を同じ流れで行うことで、自分の考えを深めたり、伝え合ったりする活動に少しずつ慣れることができるようにした。

また、発表の助けになるワークシートを用意し、発表の順を第 1 時と第 2 時で替えるなど児童が負担感なく学習に取り組めるよう工夫を行った。

(3) ICT 機器の活用

本実践においては、タブレットとタッチペンを用いて、ポスター画像に直接書き込んで意見をまとめたり、発表したりできるようにした。意見の発表を行う際には、ポスターのどの部分に着目してそう考えたのかを分かりやすく伝えるために、オンライン会議アプリと学習支援システム使用し、児童の考えを書き込んだポスター画像を画面上で共有しながら発表を行うようにした。本単元のまとめで、出し合った意見を分類したり、まとめたりするときは、ホワイトボードアプリを使用し、話し合いながら共同で資料を編集できるようにした。

I 実践報告

(4) 授業の流れ

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を振り返り、確認した工夫のポイントを確認する。 ・本時の学習のめあてを読んで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のポスター画像とポイントをまとめたスライドを提示する。 ・ワークシートを配付し、めあてを音読する。
「2つのポスターを比べて、工夫しているところを見つけよう。」		
35分 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「コスモス祭り」に関する2種類のポスターを見比べて気づいた工夫に印をつける。 ・自分だったらどちらのポスターを見て「コスモス祭り」に行きたいと思うか考え、ワークシートに書く。 ・見つけた工夫点を発表する。 ・自分だったらどちらのポスターを見て「コスモス祭り」に行きたいと思うか発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援アプリで2種類のポスター画像を配付し、見つけた工夫の箇所をタッチペンを使って線で囲んだり、書き込んだりして提出できるようにする。 ・発表の時に工夫点を示しやすいように、印の色を変えたり、記号をつけたりするように促す。 ・発表時の型となるワークシートに自分の意見を書き込めるようにする。 ・理由を説明しにくい場合は、2種類のポスターの違いに着目させ、理由付けができるようにする。 ・学習支援アプリで提出されたポスター画像を画面共有し、見つけた工夫を発表できるようにする。 ・ポスターの特徴から受けた印象について、ワークシートをもとにして、発表できるように促す。
5分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・感想をワークシートに記入し、本時の学習でできたことを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの意見や感想を聞いて気づいたことや思ったことをワークシートに記入できるようにする。 ・ポスターから受ける印象の違いがあったことに着目し、次回それについて話し合ってまとめることを確認する。

3 児童の様子

本実践は、小学部3年生の児童1名を対象として行った。教員と1対1での学習が主であり、社会見学などにオンラインで参加するときや、T-NETで普段関わりの少ない教員と一緒に学習する場においては、自分から話したり、発表したりすることに対して不安が強く、緊張を訴える様子が見られた。本実践の意見交換や発表の場面では、同学年の児童1名とオンラインでつないで行った。

(1) ICT機器で引き出す意欲

タブレットを活用した学習はこれまでも行ってきたが、今回はタッチペンを用いて、ポスター画像に直接、印をつけたりメモをしたりする活動を行った。直感的に描いたり消し

I 実践報告

たり、色を変えたりできることで、楽しみながら意欲的に取り組む様子が見られた。また、オンライン会議アプリと学習支援システムを活用することで、相手の考えを視覚的に捉えながらやり取りすることが可能となった。これにより、発表場面に対する心理的な不安が和らぎ、児童が安心して自分の意見を発表できる学習環境を整えることができた。

(2) 経験が安心を生む

発表に対する負担感を減らすため、第1時と第2時で同じ活動を繰り返すような学習の流れを設定した。第1時では、発表への不安を訴えるような言動も見られたが、第2時では、「わかった。前と同じじゃん。」と発言するなど自信を持って取り組んでいる様子であった。ただ ICT 機器を活用してオンラインでつなぐだけでなく、児童の様子を想定して発表の順を考えたり、発表の助けになるワークシートを用意したりするなどの工夫を合わせて行ったことも、児童が安心して発表に取り組むための重要なポイントであった。

3 まとめ

本実践を通して、集団で学習する体制を整えることの重要性を感じた。加えて、授業時の児童の様子から、経験の不足と学習への苦手意識は密接に関わりがあることも強く実感した。ICT 機器を工夫して活用することで、物理的な学習環境のハードルとともに、児童の心理的なハードルも下げることができると考える。病院内の環境や病状によって、集団での活動を保障する難しさは今後も変わらず課題として残る。今後もより良く ICT 機器を活用した学習の実践に取り組んでいきたい。